



カルナバイオサイエンス株式会社

株主通信

第12期報告書

2014年1月1日～2014年12月31日

CONTENTS

当社のビジネスモデル	P1
株主の皆様へ(トップメッセージ)	P5
TOPICS	P11
連結財務諸表	P13
株式の状況/株主メモ	P14
会社概要	裏表紙



前臨床試験を推進し、早期臨床試験開始を目指します。

研究ステージと開発ステージ

当社の創薬は、がん、免疫炎症疾患を重点疾患領域として、いまだ有効な治療方法が確立されていない疾患を対象とした、キナーゼタンパク質を阻害する画期的な低分子の飲み薬を創り出すことを目的としています。これらの疾患ではキナーゼの異常が大きく関与しており、当社の創薬研究は、キナーゼの異常な状態から引き起こされる疾患が対象であり、疾患に効果的な医薬

品候補化合物を創り出し、改良してきました。

それらの中から、ヒトの臨床試験を視野に入れ、薬効が高く、毒性が少ない医薬品候補化合物を選び出し、現在3つのテーマが開発段階に入り前臨床試験を進めています。前臨床試験では主に動物を用いて薬剤の安全性・有効性を確かめます。

創薬事業の研究開発テーマと進捗状況

2014年12月31日 現在

化合物	標的キナーゼ	対象疾患	研究開発・事業ステージ							
			研究ステージ			開発ステージ				
			リード化合物創出	化合物最適化	候補化合物の選択	前臨床試験	臨床試験	承認申請	上市	
AS-141	CDC7/ASK	がん	■	■	■	■				
バックアップ化合物	CDC7/ASK	がん	■	■	■	■				
NCB-0846	Wnt-signal(TN1K)	がん	■	■	■	■				
NCB-0594	Wnt-signal(TN1K)	がん	■	■	■	■				
AS-550	BTK	免疫炎症疾患	■	■	■	■				
バックアップ化合物	BTK	免疫炎症疾患	■	■	■	■				
低分子化合物	キナーゼ	白血病幹細胞	■	■	■					
低分子化合物	キナーゼ	免疫炎症疾患	■							
低分子化合物	N/A	マラリア	■	■	■					
低分子化合物	DYRK1A	アルツハイマー病	■	■	■					
低分子化合物	キナーゼ	貧血	■	■	■					

早期に導出交渉を成約し、先行投資の回収を目指します。

導出交渉について

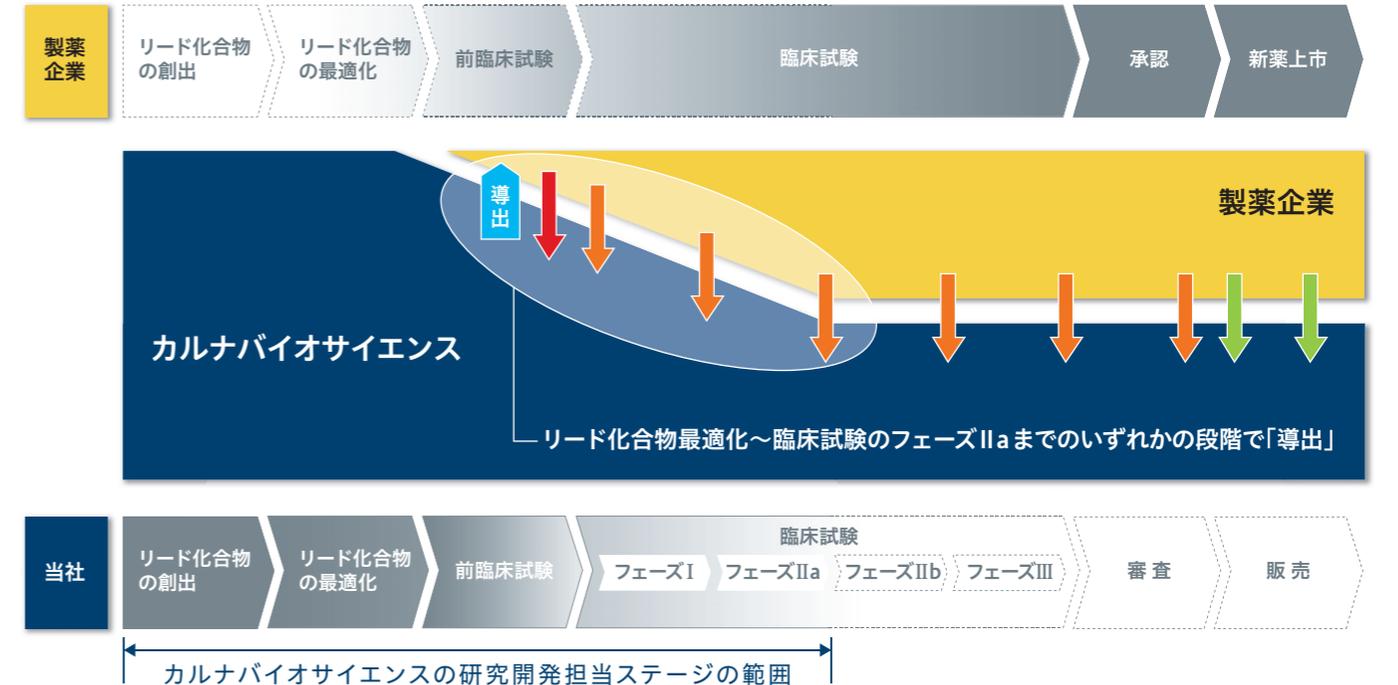
当社はこれまで研究開発してきた創薬パイプラインを大手製薬企業等に導出することを目指しています。この際に行われる導出交渉の内容は相手先によりさまざまですが、一般的には①医薬品候補化合物の薬効、安全性が基準をクリアしているかの確認。②特許等の知的財産権が確保されているかの確認。③導出時の一時金、マイルストーン金額、上市後のロイヤリティ収入の比率。

④導出後の開発スケジュールなどが論点となります。

2014年12月末現在で、CDC7キナーゼ阻害薬、TN1K阻害薬、BTK阻害薬という3つの創薬パイプラインが前臨床段階にあり、早期の臨床試験開始に向け開発を進めています。これら前臨床試験の創薬テーマを中心に導出交渉を行っており、当社にとって最大利益となるよう早期の導出契約締結を目指しています。

創薬事業の研究・開発における当社の役割と収益モデル

■ 導出 ↓ 一時金 ↓ マイルストーン収入 ↓ ロイヤリティ収入



幅広い技術・製品・サービスの提供を通し、国内外の創薬研究に貢献しています。

当社の創薬研究で培ったハイレベルの創薬基盤技術を活用し、国内外の大手製薬企業やバイオベンチャー、公共研究機関などに向けた「創薬支援事業」をグローバルに展開しています。自社製造による高品質の「キナーゼタンパク質」の販売から、顧客の高い信頼を得る「プロファイリング・スクリーニング」の受託サービス、オンリーワン技術による各種「セルベースアッセイサービス」まで、顧客ニーズの高い多様な製品・サービスの提供を通じ最先端の創薬研究をサポートしています。また、WEBセミナーなどを活用した効果的な販促活動にも力を入れています。

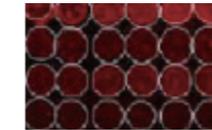


高度な研究ニーズに応えるセルベースアッセイサービス

細胞を用いた(セルベース)薬剤の評価(アッセイ系)は、試験管の中でのアッセイよりも、より現実の薬剤投与の環境に近いことから、研究の進展にともなってセルベースアッセイの需要が高まってきます。当社

グループのパートナー企業との協業によって提供する独自性の高いセルベースアッセイ群は、世界の製薬企業やバイオベンチャーの創薬研究に用いられ、高度な研究ニーズに応えています。

RPPAセルシグナル解析サービス (Reverse Phase Protein Array - 逆相タンパク質アレイ)



当社が独立行政法人国立がん研究センターから独占的に技術移転を受けたサービスで、RPPAを用いて細胞内のキナーゼシグナルネットワーク解析を行う受託サービスです。本サービスでは、細胞内のキナーゼを含むタンパク質のリン酸化の状態を包括的、系統的に解析することができ、キナーゼ阻害薬により

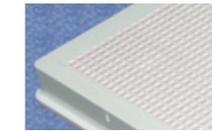
細胞内のどの情報伝達経路が影響を受けたか、あるいは受けなかったかの確認が可能です。応用範囲は広がっており、国内のみならず海外の研究機関にもサービスを提供しています。



RPPAで使用する機器とスライドガラス

ACD社 Live-cell Kinase Assays

ACD社 (米国サンディエゴ) <http://acdynamics.com/>

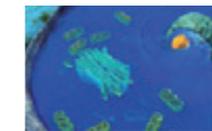


当社の協力会社である米国 Advanced Cellular Dynamics (ACD) 社が開発したセルベースチロシンキナーゼアッセイパネルです。本サービスはヒトのある特定のチロシンキナーゼ(がん疾患に関与するものが多い)を人工的に発現させたマウス

の細胞を用いて、それらのキナーゼに対して研究中の医薬品候補化合物がどのように阻害するかをその細胞の生死で確認できます。受託サービスを提供するだけでなく、顧客要望に応じた細胞を作製し、その細胞を提供することも可能です。

CAI社 ClariCELL™ Kinase Cell-Based Assay Services

Cell Assay Innovations CAI社 (米国マサチューセッツ) <http://cellassayinnov.com/>

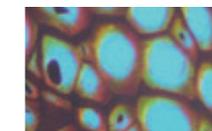


当社の協力会社である米国 Cell Assay Innovations (CAI) 社が開発したClariCELL™という細胞を用いたキナーゼのセルベースアッセイサービスです。このプラットフォームは、ヒト細胞にある特定のキナーゼとその基質とを人工的に発現させ、薬剤の効果によりキナーゼのリン酸化が阻害されるかどうかを、発現させたキナーゼの

自己リン酸化あるいは基質のリン酸化を指標に確認することができます。CAI社の最新技術はアッセイ開発にかかる時間を劇的に削減し、スクリーニングの効率化を可能にします。受託サービスを提供するだけでなく、顧客要望に応じて、顧客要望に応じた細胞を作成し、そのアッセイ系を提供することも可能です。

NTRC社 ヒト腫瘍細胞株パネル Oncolines™

NTRC社 (オランダOss市) <http://www.ntrc.nl/>



オランダのNTRC社が開発したヒト腫瘍細胞株パネル「Oncolines™」を用いることで、最大66種類のさまざまながん細胞に対し、医薬品候補化合物がどのようにそれらの増殖に影響

を与えるかを同時に確認することができます。このサービスは、適応するがんの種類を特定する場合に利用することができ、さらには適応がんの種類を拡大したい場合の検討にも有用です。

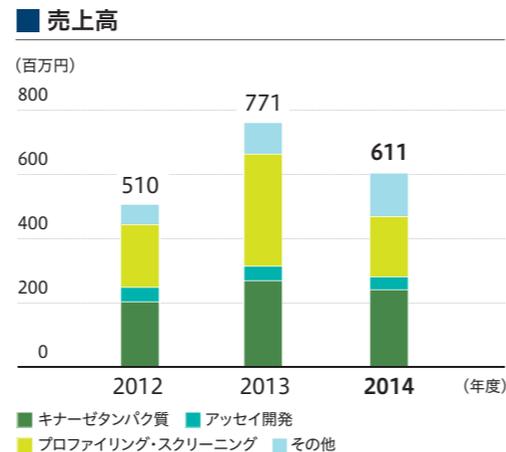


代表取締役社長
吉野 公一郎

創薬支援事業の伸張と 創薬パイプライン導出により 宿願である「全社黒字化」を 次期こそ達成します。

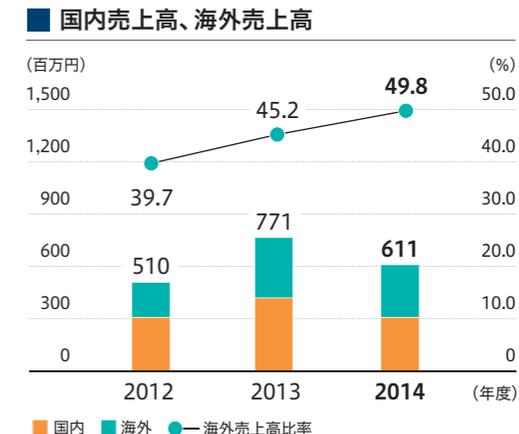
当期(2014年12月期)の総括

医療制度改革や大型医薬品の特許切れにともないジェネリック医薬品への代替が進むなか、世界の大手製薬企業は自社での研究開発を抑制する一方、新薬候補パイプラインの外部導入や有望パイプラインを保有するバイオベンチャー企業との提携・買収といった「オープンイノベーション」の流れを加速しています。こうした状況下、当社グループはキナーゼ阻害薬の創薬基盤技術を核とした「創薬支援事業」と「創薬事業」を積極展開しましたが、当期連結売上高は611百万円(前期比20.7%減)と、計画に比べ大幅な未達となりました。この主な要因は、創薬支援事業における北米地域での拡大が、計画通りに進まなかったことにあります。



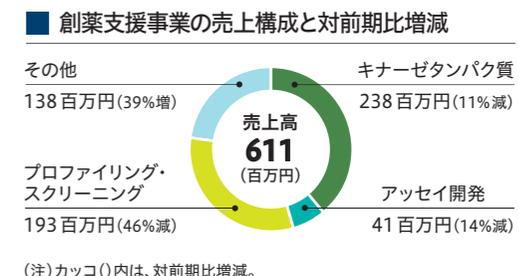
損益面では、売上減にともなう売上総利益の減少、創薬事業における前臨床試験費用の増加、株式会社SBIバイオテック社の特許権持分の取得などにより、営業損失は634百万円(前期は300百万円の損失)、経常損失は607百万円(同276百万円の損失)となりました。また前期に連結子会社となった株式会社ProbeXののれんの減損処理などにより、当期純損失は846百万円(同282百万円の損失)となりました。

ただしこのProbeX社ののれんの減損処理は、今後の黒字化を見据えた経営戦略上、有益にはたらくものと考えています。ProbeX社の保有する「スプリットルシフェラーゼ技術」は、細胞内の多様な情報伝達の分析に適用できる画期的な技術であり、すでに各方面から問い合わせを受けるなど非常に良い感触を得ています。当初想定した収益を当期中に計上できなかったことで減損処理を行いました。次期以降は同分野が業績に貢献してくることを確信しています。



創薬支援事業の主な取り組みと成果

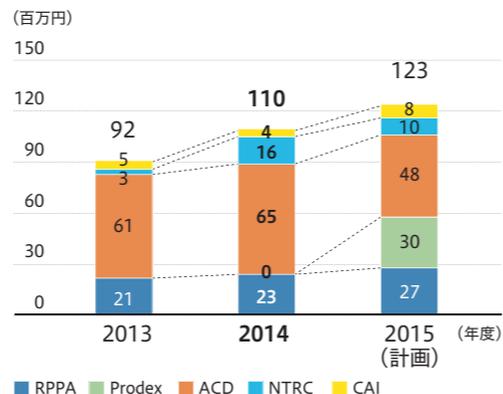
創薬支援事業の業績は、売上高611百万円(前期比20.7%減)、営業利益50百万円(同79.8%減)でした。国内市場については、前期まで売上に貢献していた小野薬品工業株式会社からの大型スクリーニングサービスの完了などにより減収とはなったものの、ほぼ計画通りの売上を達成できました。一方、前期に過去最高の業績を上げた北米地域では、さらなる拡大をめざし大型スクリーニングサービス等の獲得を重要課題として顧客への提案活動を展開しましたが、計画通りに受注に至らず、前年をやや下回る結果にとどまりました。



前期にキナーゼタンパク質やセルベースアッセイサービスなどの拡販で売上を倍増させた欧州地域も、当期はそれらの売上が伸び悩み、計画数値に届きませんでした。

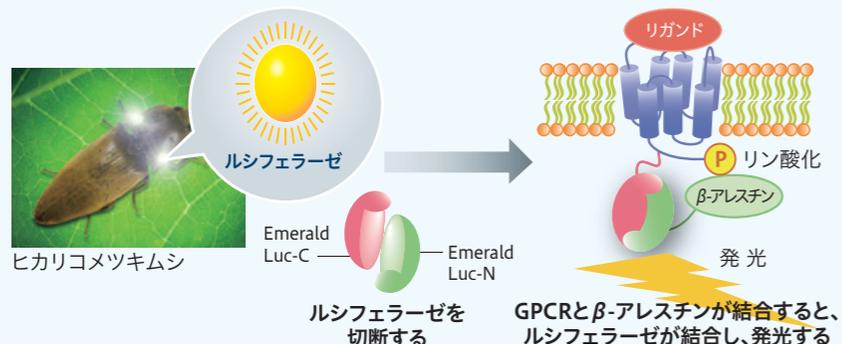
商品別に見ると、その他品目である「セルベースアッセイサービス」の認知が広がり、国内・海外とも順調に拡大できました。また国立がん研究センターから独占的実施権を得ている「RPPA解析サービス」も北米バイオベンチャーを中心に受注が拡大し、当期は欧州でも初めて売上を計上できました。前述した株式会社ProbeXの「スプリットルシフェラーゼ技術」についても、顧客からの引き合いを受けて新商品の開発を進め、次期からは本格販売を開始する予定です。

■ オンリーワン技術に基づくセルベースアッセイサービスの売上高



拡張性が高いProbeX社の「スプリットルシフェラーゼ」アッセイ技術

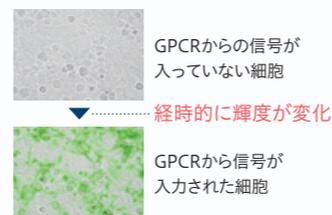
従来はGPCR阻害薬の研究にこの技術が用いられていましたが、PPI(タンパク質間相互作用)やキナーゼにおける研究でも利用できる技術として開発を進めてきました。この技術により、細胞内でのシグナル伝達をリアルタイムで測定することが可能となり、創薬開発のスピードアップと簡便化が期待できます。



高い拡張性

- GPCR
- タンパク質間相互作用
- キナーゼタンパク質

↓
リアルタイムの変化確認が可能

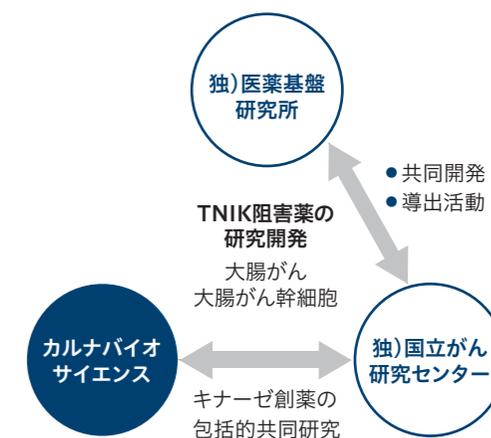


創薬事業の取り組みと成果

創薬事業については、目標である初の導出が行えず、売上は「計上なし」となりましたが、各々の創薬パイプラインの研究開発は着実に進展させることができました。大腸がん治療薬「TNiK阻害薬」は、当期8月に独立行政法人医薬基盤研究所の「創薬ブースター」の支援課題に採択され、今後の研究費負担が大幅に軽減するとともに、導出交渉などでも同研究所の強力なサポートが得られることで大きな進展が期待されます。自社研究プログラムの「BTK阻害薬プログラム」も、前臨床試験を推進し治験申請に必要なデータの取得を進めています。またがん治療薬「CDC7キナーゼ阻害薬」については、当期6月に共同研究先であったSBIバイオテック社から知的財産権の同社持分を譲り受け、当社単独の創薬テーマとして開発研究をさらに加速しています。

一方、創薬パイプラインの導出に関しては、前期に引き続き多数の企業から問い合わせを受け、複数の製薬企業などと交渉を行いました。うち数社とは具体的な金額交渉にまで進みました。最終的には契約一時金の支払い条件などで合意に至らず、期中の導出はかないまらなかったが、各社と交渉を重ねるなかで、当社の各パイプラインのバリューがさらに高まっていることを確認できました。

■ 創薬ブースターの研究開発の枠組み



■ 対象疾患分野別 標的キナーゼの一覧

対象疾患分野	主な適応疾患	標的キナーゼ
がん	トリプルネガティブ乳がん	CDC7/ASK
がん・がん幹細胞	大腸がん	Wnt-signal (TNiK)
血液がん・白血病幹細胞	慢性骨髄性白血病	キナーゼ
免疫炎症疾患	リウマチ	BTK
	N/A	キナーゼ
伝染病	マラリア	N/A
神経変性疾患	アルツハイマー病	DYRK1A
貧血	貧血	キナーゼ

次期の取り組みと業績見通し

次期(2015年12月期)については、「全社黒字化」という大きな目標を設定しています。各事業の拡大とともに研究開発費・販管費のコントロールもより強化し、強い決意を持って目標達成をめざしています。

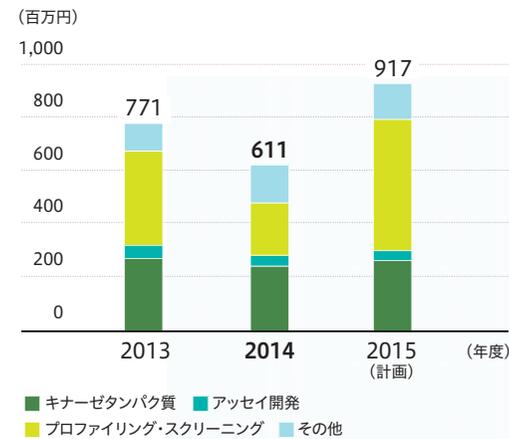
創薬支援事業においては営業戦略を売上重視から利益率重視へとシフトし、特に利益率の高い社内製品・サービスの売上拡大に注力することで利益の極大化をめざします。株式会社ProbeXのサプリメントシフェラーゼ技術についてもGPCR、キナーゼ、PPIなど適用範囲を拡大し、幅広い製品(細胞株)で全世界的に拡販を図り、新たな柱に育てていきます。

国内市場では、既に2月13日に開示した通り、小野薬品工業株式会社から新たな大規模プロファイリング・スクリーニングサービスを受注しており、これらを含め大幅な売上・利益の増加を見込んでいます。創薬の最大市場である北米については、引き続き重点課題である一定規模のプロファイリング・スクリーニング案件の受注をめざし、有力バイオベンチャーを中心に提案活動をより強力に進めます。

また新たな情報発信として、インターネットを活用した学術セミナー(Webinar:ウェビナー)を開始しています。新技術や新サービスに関する正確な情報を、多くの顧客に同時に、効率的かつ効果的に訴求できるウェビナーを積極的に活用して、欧米の主要顧客などへの学術営業を強化し、販売拡大につなげていきます。

以上により、次期の創薬支援事業は、売上高917百万円(対前期比50.0%増)、営業利益406百万円(同708.1%増)を見込んでいます。

■ 創薬支援事業売上高



■ インターネットを活用した学術セミナー



Webinar(ウェビナー)に関する情報はホームページをご覧ください。
<http://www.carnabio.com/japanese/webinar/>

一方、創薬事業に関しては、前臨床段階にある3つのパイプラインのステージアップを強力に推進すると同時に、全社黒字化の鍵を握る「導出」を、次期こそは実現する考えです。すでに特定の創薬パイプラインが最終的な導出交渉段階に来ており、次期中には当社初の導出を決めたいと思います。そして導出にともなう契約一時金に、創薬支援事業の利益を加えることで、創業以来の宿願である「全社黒字化」を達成する予定です。

この導出により、創薬研究企業としての当社の実力を世界の製薬業界に示せば、他の研究パイプラインへの注目度も飛躍的に高まり、次なる導出の可能性もさらに拡大するはずでです。「全社黒字化」を契機に、次期以降当社事業を一気に成長軌道に乗せていきます。株主の皆様には、引き続き当社への温かいご理解とご支援をお願いいたします。



■ 次期以降の方針

基本方針

- 1) 平成27年12月期営業損益の黒字化の達成
- 2) 創薬事業における早期導出
- 3) 創薬支援事業における大規模受託試験の獲得および完遂
- 4) 研究開発資金の継続的調達

その他方針

創薬事業

- 重点領域は引き続きがんおよび免疫炎症疾患
- 当社研究テーマの臨床試験段階への早期ステージアップ
- 新規創薬研究テーマに係る化合物の早期最適化

創薬支援事業

- オンリーワン製品、サービスの品揃えの拡大および拡販
- ProbeX社ビジネスの拡大



2014年 1月10日・22日、7月29日

「TNIKキナーゼ阻害薬」が欧州・中国・日本で特許を取得しました。

当社と国立がん研究センターの共同研究によって創出された「TNIKキナーゼ阻害薬」に関する特許が世界各地で登録されています。2014年1月にヨーロッパ特許庁と中国特許庁から相次いで特許査定通知を受領したのに

続いて、同7月には日本の特許庁からも特許査定通知を受け、「TNIKキナーゼ阻害薬」の特許権が幅広い地域で確保されることになりました。今後も知的財産戦略において重要となる特許の取得に積極的に取り組んでいきます。

2014年 3月4日

金沢大学と白血病治療薬に関する共同研究契約を結びました。

当社は、金沢大学と慢性骨髄性白血病(CML)のがん幹細胞を標的とした治療薬開発に関する共同研究契約を締結しました。金沢大学がん進展制御研究所では、CMLの再発に大きく関与していると考えられるがん幹細胞に関するシグナル伝達経路の研究を進めており、すで

に有望ターゲットとして特定キナーゼが同定されています。今後は同研究所の最先端の科学的知見と当社のキナーゼ阻害薬に関するノウハウを結集して、CMLを根治できる新世代の分子標的治療薬の創製をめざしていきます。

2014年 3月20日

八洲薬品株式会社と東南アジア地域での代理店契約を結びました。

試薬、医薬品、理化学機器などの販売事業を国内外で展開する八洲薬品株式会社と、東南アジア地域における販売代理店契約を締結しました。同契約はシンガポール、ベトナム、マレーシア、インドネシアの東南アジア各国に

おいて、当社製品(キナーゼタンパク質、ビオチン化タンパク質・基質、アッセイキット)に関する非独占的販売権を八洲薬品に対して与えるもので、これによりアジア地域でのさらなる売上拡大と認知度向上を図っていきます。



2014年 6月11日、10月20日

「CDC7/ASKキナーゼ阻害薬」が米国・日本で特許を取得しました。

当社がSBIバイオテック社から知的財産権を取得し、単独で研究開発を進める「CDC7/ASKキナーゼ阻害薬」が、米国・日本で特許を取得しました。2014年6月に米国での特許出願が認められ特許が登録されたのに続き、10月に

は日本の特許庁からも特許査定通知を受領しました。日本の特許査定は特許庁の「スーパー早期審査制度」を活用したもので、早期の権利化が可能となりました。今後も引き続き特許権が確保される地域の拡大を進めていきます。

2014年 6月30日

SBIバイオテック社から「CDC7/ASKキナーゼ阻害薬プログラム」の知的財産権を取得しました。

当社は、SBIバイオテック株式会社が保有する「CDC7/ASKキナーゼ阻害薬プログラム」に関する知的財産権の同社持分を同社から譲り受けました。がん疾患を標的とする「CDC7/ASKキナーゼ阻害薬プログラム」について、両社は2009年から共同研究を行ってきましたが、本プログラム

をより速やかに臨床試験ステージに進め、導出をめざすことが両社の企業価値を極大化するとの観点から、今回の譲渡契約締結に至ったものです。今後は当社単独の開発テーマとして同プログラムの研究開発を加速していきます。

2014年 8月4日

TNIKキナーゼ阻害薬が「創薬ブースター」の支援課題に採択されました。

当社と国立がん研究センターが2008年から共同研究を進めている大腸がん治療薬「TNIKキナーゼ阻害薬」が、独立行政法人医薬基盤研究所の創薬総合支援事業「創薬ブースター」の支援課題に採択されました。創薬ブースターは実用化の可能性が高いと判断され創薬シーズ

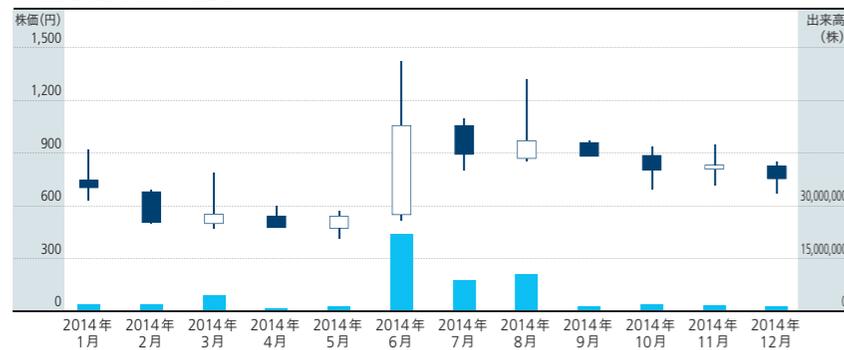
に対し、研究戦略の策定から技術支援、知財管理、導出に関する助言などシームレスな支援を行うもので、前臨床試験を国立がん研究センターと医薬基盤研究所の共同で実施することから、研究開発の迅速な進捗が期待されます。

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2013年12月31日現在	当連結会計年度 2014年12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	1,361,035	907,589
固定資産	527,940	313,856
有形固定資産	36,168	52,505
無形固定資産	281,637	2,193
投資その他の資産	210,134	259,157
資産合計	1,888,976	1,221,446
(負債の部)		
流動負債	129,813	195,558
固定負債	161,299	195,659
負債合計	291,113	391,218
(純資産の部)		
株主資本	1,535,739	736,219
資本金	2,602,728	2,627,070
資本剰余金	1,422,375	1,445,230
利益剰余金	△ 2,489,364	△ 3,336,081
その他の包括利益累計額	52,211	84,718
純資産合計	1,597,862	830,227
負債純資産合計	1,888,976	1,221,446

株価と出来高の推移



連結損益計算書

(単位:千円)

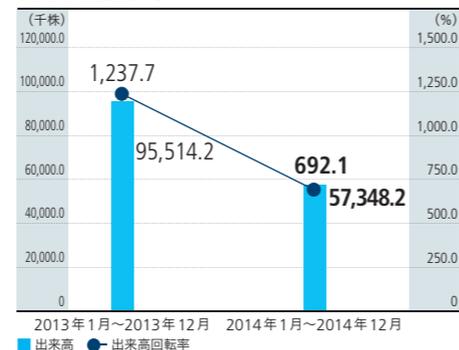
科目	前連結会計年度 2013年1月1日から 2013年12月31日まで	当連結会計年度 2014年1月1日から 2014年12月31日まで
売上高	771,464	611,760
売上総利益	539,350	378,803
営業損失(△)	△ 300,700	△ 634,949
経常損失(△)	△ 276,495	△ 607,177
税金等調整前当期純損失(△)	△ 279,003	△ 844,836
当期純損失(△)	△ 282,343	△ 846,717

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 2013年1月1日から 2013年12月31日まで	当連結会計年度 2014年1月1日から 2014年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 247,034	△ 468,976
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,576	△ 41,826
財務活動によるキャッシュ・フロー	701,124	66,574
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,062	3,400
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	455,576	△ 440,827
現金及び現金同等物の期首残高	611,993	1,067,570
現金及び現金同等物の期末残高	1,067,570	626,742

出来高回転率



株主の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式の総数	8,318,100株
株主数	7,219名

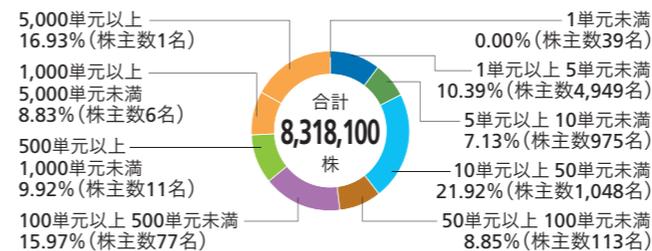
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
小野薬品工業株式会社	1,409,000	16.93
吉野 公一郎	200,000	2.40
松井証券株式会社	114,600	1.37
株式会社SBI証券	112,600	1.35
BNY FOR GCM CLIENT ACCOUNTS (E) ILM	104,900	1.26
カルナバイオサイエンス役員持株会	103,200	1.24
クリスタル ゲノミクス インク	100,000	1.20
カブドットコム証券株式会社	99,200	1.19
勝岡 達三	94,200	1.13
BNY GCM ACCOUNTS M NOM	93,200	1.12

株式・株主分布



所有株式数別内訳



株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 3月開催
 基準日 12月31日
 上場証券取引所 東京証券取引所
 JASDAQ(グロース)
 証券コード 4572
 株式の売買単位 100株
 公告方法 電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。
<http://www.carnabio.com/japanese/ir/notification.html>
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先) 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) ☎ 0120-782-031
 (インターネット/ホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

(注)当社は、平成26年1月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株とする株式の分割を実施しております。

■ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

カルナ<CARNA>の由来

当社の社名である「カルナ(Carna)」はローマ神話の「人間の健康を守る女神」です。また「身体の諸器官を働かせる女神」などとも言われています。

当社は生命科学「バイオサイエンス(Bioscience)」を探究することで「人々の生命を守り、健康に貢献することをめざす」ことを基本理念としています。

当社はまさに「カルナ(Carna)」でありたいと願っています。



ホームページをリニューアルしました

<http://www.carnabio.com/japanese/>

トップページ



「IR情報」ではIRニュースを掲載しています。また、「IRお問い合わせ」のページでご意見・ご質問などをお受けしております。

IR情報ページ



IRニュースメール新規会員登録
ただいま会員募集中

最新のIRニュース、IR情報をメールでお知らせするサービスです。ぜひ、ご登録ください。

見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。

これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

カルナバイオサイエンス株式会社

〒650-0047

神戸市中央区港島南町1丁目5番5号 BMA 3F

TEL 078-302-7039(代表) FAX 078-302-6665

URL <http://www.carnabio.com>

会社概要

商号	カルナバイオサイエンス株式会社
設立	2003年4月10日
資本金	26億2,707万円(2014年12月31日現在)
事業内容	創薬支援事業: キナーゼタンパク質の製造・販売、アッセイ開発、プロファイリング及びスクリーニング・サービス、セルベースアッセイサービス等の提供並びにスプリットルシフェラーゼ技術に基づく安定発現細胞株の研究開発及び製造・販売 創業事業: キナーゼ阻害薬の創製研究(自社研究及び共同研究)並びに製薬企業等への導出活動
従業員数	47名(2014年12月31日現在)
所在地	神戸市中央区港島南町1丁目5番5号 BMA 3F
上場市場	東京証券取引所JASDAQ グロース(証券コード4572)

役員(2015年3月24日現在)

代表取締役社長	吉野 公一郎	社外取締役	高柳 輝夫
取締役	相川 法男	社外監査役(常勤)	有田 篤雄
取締役	澤 匡明	社外監査役	小笠原 嗣朗
社外取締役	柳原 恒久	社外監査役	中井 清

海外子会社

商号	CarnaBio USA, Inc.
代表者	二村 晶子
所在地	米国マサチューセッツ州、ネイティック(ボストン市近郊)
主な業務内容	北米における創薬支援事業(キナーゼ創薬研究に関する製品・サービスの販売・提供)
資本金	1,100千米ドル(2014年12月31日現在)
従業員数	2名(2014年12月31日現在)

国内子会社

商号	株式会社ProbeX
代表者	吉野 公一郎
所在地	神戸市中央区港島南町1丁目5番5号
主な業務内容	分子イメージング用プローブ試薬、細胞・動物の企画・開発・生産・販売・コンサルティング
資本金	1億2,486万円(2014年12月31日現在)



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



この報告書は環境にやさしいベジタブルインキを使用しています。